

年度/Academic Year	2024
授業科目名/Course Title (Japanese)	アジャイル開発を成功させる組織マネジメント
教員名/Instructor (Japanese)	居駒幹夫
講義概要/Course description	
<p>DXを実現するための鍵の一つであるアジャイル開発を成功するためには、開発者、開発部署のみの活動だけではなく、企業レベルの組織的な取り組みが必要不可欠である。</p> <p>本科目は、組織の仕掛けとして学習をとらえ知識や文化の変革や創造を扱う組織学習論をベースとして、日本で普及が遅れているアジャイル開発の組織への適用を題材に組織の変革を実現する方法について学ぶ。</p> <p>受講者一人ひとりが自分の関連する組織でどのように、アジャイル開発に代表されるような新しい技術を取り入れ、結果として、組織構造や文化をより発展させることができるかをケースを題材にグループワークで学ぶ。</p>	
達成目標/Course objectives	
<p>組織学習論での主要なモデルや考え方を説明できる。</p> <p>DXで、ビジネスに価値を組み込むためにアジャイル開発が有用な理由を説明できる。</p> <p>アジャイル開発を組織内で適用を開始するときの問題点とそれに対応した施策を、計画し、ステークホルダーに説明できる。</p>	
授業計画/Lecture plan	
講義回	
1	【イントロダクション】 DXとアジャイル開発の関係。日本の組織での問題の本質
2	【組織学習論】 経営学での組織学習論。「学習する組織」「知的創造企業」「ティール組織」等
3	【アジャイル開発の概要】 アジャイル開発の概要の復習（ある程度、事前に知っていることを前提にする）
4	【ケーススタディ1】 アジャイル開発の適用の失敗事例を題材に、グループワークで、何が失敗の原因かを議論する。
5	【ケーススタディ2】 アジャイルを導入しようとする組織のメンバとして、どのように組織を変革していくべきかを議論する。
授業方法/Method of instruction	
<p>対面で実施する。</p> <p>授業内でPCを使ったグループワークを行う。</p> <p>自分のPCを持参すること</p>	

成績評価方法/Evaluation

授業への貢献(50%)および気づきシート(50%)を評価する。

参考書/Reference books

『学習する組織システム思考で未来を創造する』ピーター・M・センゲ、枝廣淳子・小田理一郎ほか訳、英治出版(2011)。

『知識創造企業』野中郁二郎、竹内弘高ほか、東洋経済新報社(1996)。

『アジャイル開発のプロジェクトマネジメントと品質マネジメント:58のQ&Aで学ぶ』居駒幹夫・梯正人、日科技連出版社(2020)。

『アジャイルサムライ達人開発者への道』J.Rasmusson、西村直人、角谷信太郎ほか、オーム社(2011)。